

Dāna

ダーナ／第42号
発行日／令和7年1月25日
発行人／廣瀬卓爾
編集・発行／浄土宗平和協会

VOL.
42

「ダーナ」とは
サンスクリット語で「布施」の意

浄土宗平和協会のホームページは、
こちらから。



戦後80年メッセージ 平和への新たな誓願

1945年8月6日・9日・15日。今年はその夏から80年目を迎える。

この80年間、日本宗教界は、当時の時代状況がどうであったにせよ、またそれが能動的なものであったか受動的であったかを問わず、国策に抗することなく、とりわけ日中戦争以降、大政翼賛的な時代の潮流に教義を曲げさえて戦争遂行に加担した否定しがたい事実を顧みて、幾度となく懺悔・慙愧の念と平和への努力の表明を繰り返してきた。

私たち浄土宗平和協会が、アジア太平洋戦時下における浄土宗の動静を検証し、2023年に公刊した『浄土宗「戦時資料」に関する報告書』にもその実情は如実に示されている。

いま、戦後80年目を迎え、また現下の国際情勢を知るにつけ、これまでの「懺悔」が、こんにちもなお真に根付いているのかが問われており、かつて誓った平和への弛まぬ努力の本気度が試されてもいる。

原爆死没者慰霊碑の石棺正面には「過ちは繰返しませぬから」と刻まれている。原爆犠牲者の冥福を祈り、戦争という過ちを繰り返さないことを誓う言葉であるが、ここには世界平和の実現を真に祈念し誓願する真摯な想いが込められている。

<2024年平和記念式典>で広島市内の小学校6年生は、この慰霊碑の前で、静かだが強い意志を言葉に込めて「願うだけでは、平和はおとずれません。色鮮やかな日常を守り、平和をつくっていくのは私たちです」と述べた。「願うだけでは」を「祈るだけでは」に置き換えて心を新たにしたい。

あの日から80年。いま一度「懺悔」の意味を確と受け止め、核兵器廃絶への取り組みをはじめ、平和構築に私たちが為すべき具体的な課題を模索しかつ精進することをここに誓願する。

2025年1月 浄土宗平和協会

INDEX

MESSAGE 戦後80年メッセージ「平和への新たな誓願」 / 「浄土宗平和誓願の集い」中四国区大会開催報告 /
FEATURE 《特集》ダーナ鼎談：「戦後80年」を機会に平和のための一歩を 一歴史に学び、実践の道へ / ブックギフト開催報告
COMPETITION 第6回平和作文コンクール / INFORMATION コラム兵戈無用、編集後記ほか

浄土宗平和協会 浄土宗開宗850年記念事業

浄土宗平和誓願の集い



《 中四国地区大会開催 》

平和誓願法要では、当協会の会長である宗務総長川中光教上人中導師のもと、左導師に岡山教区長服部常信上人・右導師には会所である誕生寺漆間勇哲和尚に勤めて頂き、また教区内寺院による式衆並びに詠唱の皆様、多くのご協力を得て、世界の平和を願い厳修されました。

法要後、戦時資料パネル20点が展示され、廣瀬卓爾理事長による紹介と解説がなされた。記念講演として、華頂短期大学准教授 伊藤茂樹先生に「法然上人立教開宗とその意義～万人救済」と題してご講演いただきました。

令和7年は終戦80年を迎えます。沖縄で開催される九州地区大会へのご参加をお待ちしています。

浄土宗 第二次世界大戦終戦80年戦没者追悼法要 浄土宗平和誓願の集い

◆九州地区大会

日 時 令和7年6月25日(水)
場 所 沖縄平和祈念公園 その他
日 程 令和7年度浄土宗平和協会総会
法 要 平和誓願法要
記 念 講 演 日本原水爆被害者団体協議会 (被団協)
事務局次長 和田征子さん
パネル展示 (戦時資料)

交 歓 会



「戦後80年」を機会に 平和のための一歩を — 歴史に学び、実践の道へ —

令和7(2025)年は、アジア・太平洋戦争が終わって80年目に当たります。ウクライナや中東での戦火はいまだに終息する気配がありませんし、朝鮮半島や台湾をめぐる情勢も緊張を増しています。浄土宗平和協会は一昨年、日中戦争からアジア・太平洋戦争の終結に至る8年間(1937—45年)の、浄土宗教団と戦争との関わりを検証する報告書(『浄土宗「戦時資料」に関する報告書』)を刊行し、予想を超える反響を得ました。改めて深い反省の上に立ち、二度と戦争に与(くみ)しないという堅固な意思と平和への確かな行動を共有できるかどうか問われています。われわれに課された「重い課題」であると言ってよいでしょう。そのヒントを得るため、教団内外の二人の識者を迎えて話し合いました。



(左から) 廣瀬卓爾理事長、島藺進先生、長谷川匡俊先生

「天皇即阿弥陀」教学への痛憤

——理事長の廣瀬卓爾です。今日お招きしたのは東京大学名誉教授で宗教学者の島蘭進先生と、浄土宗の僧侶でもある淑徳大学元学長の長谷川匡俊先生です。島蘭先生は、ご存じの通り仏教だけでなくキリスト教やイスラム教まで幅広い視野を持ち、戦前の日本の宗教界が「神格化された天皇」の前に宗教的生命を奪われ、戦争に協力していった過程を多くのご著書で描き出しておられます。また長谷川先生は近世日本仏教史の研究者である一方、社会福祉事業やブラジル開教で高名な長谷川良信師のご子息で、大乘淑徳学園理事長としても、ご尊父の事業を引き継いでおられます。われわれ現代に生きる仏教者・念仏者が、恒久平和や真に平等・幸福な社会を実現するためどう踏み出せばいいのか、率直なご意見をお聞かせいただきたいと思っています。よろしく願いいたします。

島蘭氏 「こういう機会を与えていただき、うれしい限りです。私はかつて上智大学でも教える機会があったのですが、ある学生が長谷川良信師とその師僧である渡辺海旭師（注1）が行った社会福祉活動についての研究論文を執筆するのを指導しました。今日は匡俊先生とお目にかかり、良信師の生前の言動などについて直接うかがえるのを楽しみにやって参りました」



渡辺海旭師=長谷川匡俊著『トゥギャザー ウイズ ヒム』から転載



島蘭進（しまその・すすむ）

東京大学名誉教授・大正大学客員教授（宗教学・近代日本宗教史）。1948年、東京都生まれ。東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。著書に『現代宗教の可能性』『国家神道と日本人』『日本仏教の社会倫理』など。世界平和アピール七人委員会委員（宗教学）。



著書：『国家神道と日本人』

長谷川氏 「ご期待にきちんと応えられるかどうか、自信はありませんが…。まず、先ほどの浄土宗の戦時報告書のことですが、私も拝読しました。詳細な年表など、実に重要な成果が収められていると感じました。中でもクローズアップされていたのが『天皇即阿弥陀仏』とするいわゆる戦時教学ですが、近代日本仏教史研究に大きな足跡を残された吉田久一先生（注2）が戦地に赴く際、通っていた大正大学の教師から『戦地に極楽浄土がある』と教えられたというエピソードを、思い出しました。当時、宗門の大黒柱だった人たちの多くがこうしたことを堂々と述べていたのだと、衝撃を新たにしました次第です」

FEATURE

——浄土宗のご本尊である阿弥陀如来が、当時は天皇と同一視されていたという報告には、われわれも驚かされました。島藺先生、戦前には他の仏教教団やキリスト教でもこれと似たような動きがあったのでしょうか。

島藺氏 「浄土宗だけが突出していたわけでは、決してありません。そもそも、明治維新により成立した近代日本国家では、西欧諸国のあり方にならって信教の自由はかなりの程度、認められていたのです。ところが時代が下るにしたがって、『天皇の神聖化』が進んでくる。そして満州事変（1931年）以降は、仏教の各宗派も含めて宗教的な主体性を喪失してしまうわけです」

——このあたりの研究は、島藺先生のご専門でもあります。仏教をはじめとした諸宗教が、なぜこうも簡単に翼賛的な動きに組み込まれていったのでしょうか。

島藺氏 「かなり込み入った問題ですが、かいつまんで説明すると、王政復古を実現した明治新政府はただちに祭政一致を打ち出します。当初は神道国教化を目指しますが、次第に“神道は宗教にあらず”という論理を打ち出すのです。その結果として、国家神道は仏教など諸宗教の上にあるものとして、国民に浸透させていくのです。キリスト教は仏教よりは遅いけれど、例えば内村鑑三は明治24（1891）年、勤務していた第一高等中学校での教育勅語奉読式で拝礼せず、依願退職に追い込まれてしまう。国家神道が推進する天皇崇敬の圧力には、信教の自由は事実上、失われてしまうわけです」

——仏教者が何より大切にしている「不殺生戒」（他人のいのちを奪ってはならないという戒め）の対極にあるのが戦争です。にもかかわらず、戦争に反対することはできなかったわけですね

島藺氏 「個人的には戦争に反対する宗教者もいたでしょうが、大きな動きにはなっておりません。むしろ日清・日露の戦争に勝利し、国民の多くも熱狂してゆく中で、日



長谷川匡俊（はせがわ・まさとし）

大乘淑徳学園理事長（日本仏教史・社会福祉史）。1943年、東京都生まれ。明治大学大学院文学研究科修士課程修了。元淑徳大学長。著書に『近世浄土宗の信仰と教化』『トゥギャザー ウイズ ヒム—長谷川良信の生涯』などがある。千葉市中央区の浄土宗大蔵寺住職。



著書：『トゥギャザー ウイズ ヒム』

蓮系の田中智学（たなか・ちがく、1861-1939）や浄土真宗の暁烏敏（あけがらす・はや、1877-1954）のように、積極的に天皇を中心にした国体論に合致した言説を唱え、多くの人を引き付けるリーダーが現れます。浄土宗教団の中にも、そうした動きに乗って“天皇即阿弥陀仏”という戦時教学を打ち出す高僧が出現した、ということでしょうね」

いま「平和教育」の困難さ

——戦前の政府と宗教団体の関係についての歴史をうかがって、われわれはよくよく注意しなければと思います。戦前と違うとはいえ、平和に慣れ切った現代の若い仏教者に対して、言い難い危うさを抱くのは私だけでしょうか。

島菌氏 「欧米では昨今、右翼的な考え方が大きな潮流になってきています。ドイツではナチスにもつながりかねない信条を訴える政党が支持を広げ、イタリアやフランスでも右派が政権を取ったり、近づいたりしている。第二次大戦後、国際連合やユネスコができ、世界人権宣言が出されたころに存在した『人類共通の理想に近づこう』という希望が失われてしまっている気がします。こうした中で、私などは『非暴力と平和と共生を目指す仏教にこそ力があるはず』と思うのですが、実際には声が出てこない」

—— その理由は、なぜなのでしょう。

島菌氏 「一般に欧米では、キリスト教より仏教の方が非暴力に近いと考えられています。ところがアジアにある多くの仏教国で、平和を実現するための効果的な行動は起こっていない。ミャンマーでは軍事政権が独裁を続けているし、スリランカやタイでも暴力的支配を免れていない。日本も期待されるほどの役割を果たしているとは、とても言えません」

長谷川氏 「おっしゃる通り、今こそ仏教の出番のはずなのですが、日本の仏教界にしても、手探りなのでしょうね。私などは、このままだと1930年代の日本になりかねない危機感を覚えています。若い世代の時代認識はそういうふうには映りません」

島菌氏 「仏教、キリスト教、イスラム教は世界宗教と呼ばれ、暴力に対抗できる平和のポテンシャルを持っているとされますが、世界史を振り返る限り、王権、とりわけ帝國的な王権の政策を補完する役割を果たしているケースがほとんどなのです。例えば日本でも江戸時代、仏教は現世の社会秩序を背後から支えるものとして、とりわけ浄土教系は死後の救いを受け持つものと位置付けられ、実質的に王権の支配を支えた。暴力的支配を否定するはずの仏教がその支えになるというのは、宗教につきものの悲しい逆説ではあるのですが…」

仏教に根差した「共生」の思想

—— なんと、菌がゆい議論ですね。ではこのあたりで、話を長谷川良信師に移したいと思います。師は明治23（1890）年のお生まれで、浄土宗第一教校（現芝中学校）を出て大正大学の前身である宗教学校に入学されます。そこで先ほどの渡辺海旭師と出会われるわけですね。

長谷川氏 「海旭師は明治5年生まれですから、良信より18歳の年長。当時は宗教大学の教授で、ドイツ留学も経験して、わが国最初の労働者保護教育施設である『浄土宗労働共済会』を設立するなど活躍していました。良信は『最高、最良の師である』と表現していますし、海旭師を慕う気持ちは、『たとえ法然上人にだまされて地獄に落ちても後悔しない』（歎異抄）と表現した親鸞聖人のような思いだったのでしょうか」

—— その出会いをきっかけに、社会福祉事業の重要性に目覚められた。

長谷川氏 「そのようですね。大学に入った明治45（1912）年にはコメの価格が高騰し、のちの米騒動につながる動きが始まっています。東京でも、困窮にあえぐ人



が増えていました。良信は浄土宗労働共済会へのボランティアとして貧しい人々が住む地区を頻りに訪れ、安いコメを買い付けるなどの活動に打ち込んだのです。また浄土宗や宗教大学が発行していた機関誌に福祉活動の意義を説く論文を発表するなど、啓蒙活動にも力を注ぎました」

—— こうだと決めたらすぐ行動に移す、けた外れの実践力に驚かされますね。浄土宗でいえば、幕末から明治維新期にかけては福田行誠上人(注3)のような社会事業家も出ています。宗門の伝統のようなものが、あったのでしょうか。

島藺氏 「浄土宗は、例えば東京宗務庁のあるここ増上寺が徳川家の菩提寺であったことなどから、仏教界のリーダーだと目されていました。渡辺海旭のような浄土宗の僧侶たちにも、その気概はあったのでしょうか。もちろんこの時代、他の宗派の人たちも新しい時代に向き合おうと、さまざまな社会活動に乗り出したことは事実です。曹洞宗の大内青巒(おおうち・せいらん、1845-1918)のような人物もいます。しかし残念なことに、大きな運動として長く続かない」

長谷川氏 「近世の仏教史を勉強している目から見れば、江戸・幕末期までは結構、仏教者としての主体性を持った僧侶が少なくありません。ところが近現代になると、後

退してしまっている感がある。はっきりした理由は分からないけれど、教団としても反省しなければなりませんね」

—— 良信師がセツルメント活動をされたのはいつごろでしたか。

長谷川氏 「大正7、8(1919)年ごろからですね。西巢鴨にあった通称“二百軒長屋、いわゆるスラム(細民地区)などで共同生活を送り、子供や女性、生活困窮者のために尽くしたのです。仏教者のセツルメントとしては相当早い時期にあたり、良信が『隣保(りんぼ)事業』と和訳したのです」

「トゥギャザー ウイズ ヒム」 Together with him

—— 良信師が社会福祉事業に取り組むにあたっての精神、また社会観とはどのようなものだったのでしょうか。

長谷川氏 「根底にあったのは、やはり仏教的な『縁起の思想』ですね。あらゆるものは単独では存在せず、相互に関わって成り立っているという認識です。貧困にしても病気にしても、個別的な問題ではあるが、その人が属している家族やコミュニティ全体の課題でもあるという考え方は。座右の銘にしていたのは『感恩奉仕』で、他のいのちに生かされていることへの感謝と、他のいのちを生かして共に生きることの大切さを、繰り返し口にしていました。また福祉事業に携わる姿勢、理念として、救う側と救われる側の平等性を大切に、『フォー ヒム』(彼のため)であってはならず、『トゥギャザー ウイズ ヒム』(彼とともに)で接するべきと、常に戒めていました」

島藺氏 「セツルメント運動は欧米の社会主義の影響もありますが、長谷川良信の『トゥギャザー ウイズ ヒム』という考え方には、何か時代を突き抜けて現代にも通じるものを感じます。しかも、差別問題であるとか災害支援であるとか、難民問題とか気候変動とか、平和や戦争とは直接つながらない現代の重要課題に向きあう際にも、考え方と



して大いに参考になる。2001年1月に出された『浄土宗 21世紀劈頭(へきとう)宣言』にもたしか『共生(ともいき)』というキーワードが含まれていましたよね」

—— 宣言を正確に言うと、「愚者の自覚を / 家庭にみ仏の光を / 社会に慈しみを / 世界に共生を」の4項目です。共生は文字通り、SDGs（持続可能な開発目標）の先取りでもありました。改めて、われわれが取り組まなければならない課題であると感じます。

長谷川氏 「まったくその通りですね」

—— 長谷川良信師は戦後、ブラジルで日本仏教の開教にあたられます。どのような契機、あるいは経緯があったのでしょうか。

長谷川氏 「良信は社会事業に携わる中で、貧困と人口増加の解決策として移民という手段に関心を持っていました。さらに終戦直後には食糧難が深刻化し、ブラジル移民に再度脚光が当たったのです。ブラジルとの国交が回復されたのは昭和27（1952）年でしたが、良信は旧知の上塚司（うえつか・つかさ）（当時衆院議員）らと図り、三度にわたってブラジルに赴きます。二度目は2人の青年開教使と18歳だった私の兄も伴っての旅でした。サンパウロ市に浄土宗別院としての日伯寺を建て、幼稚園や日本式中学校、老人クラブや障害児施設なども併設したのです」



長谷川良信師。ブラジル・サンパウロ市の南米浄土宗別院日伯寺の前で
＝長谷川匡俊著『トゥギャザー ウイズ ヒム』から転載

—— ブラジルは、国土の広さは日本の約22倍。多民族国家ということもあり、かなり苦勞されたのではないのでしょうか。



長谷川氏 「他民族国家で日本人への差別が少ないというのは、逆にブラジルの長所だったようです。しかし当時の良信の日記を読むと、資金集めが大変だったこと、また日系人同士で、先の戦争への向き合い方が異なり、いわゆる「勝ち組」と「負け組」の分断が激しかったことに心を痛めていたことが分かります。中に立っての調停は簡単ではなかったでしょうね」

人生に重要な「実践力」

—— それにしても、われわれには及びもつかない型破りな実行力ですね。

島藺氏 「私など、宗教者の社会实践は極めて大事だと思うのですが、最近の高等教育ではややおろそかにされているのではないのでしょうか。冒頭に話した上智大学で教えていたころ、もちろん設立主体（学校法人上智学院）であるキリスト教を学ぶ神学部は大事にされているのですが、社会福祉を学ぶ総合人間科学部の社会福祉学科などとは、ほとんど接触もないことにびっくりしました。本来、社会福祉などは信仰に支えられた活動があって発展してきたものですから、これをつなぐ領域として、大学院に『実践宗教学研究科』という機構ができました」

FEATURE

長谷川氏 「まったく同感です。かつて西本願寺系の龍谷大学大学院に『実践真宗学研究科』というのが設けられ、私も関心があったので話を聴かせていただきました。いい試みだと感じ、わが浄土宗の教学大会で『浄土宗もこうした方向に目を向けては』と提言したのですが、参加した研究者の関心はもうひとつでした。学問は多様化していますが、日々の生活に近い仏教学の応用が忘れ去られてはなりませんね。平和な社会を作るといった夢も、実践で練られてゆく中で実現に向け進んでいくのではないのでしょうか」

——私の専門分野は社会病理学ですが、その研究で得られた知見を、臨床的な実践につなげる重要性を痛切に覚え、佛教大学にその教育分野の設置を望んだのですが理解を得られませんでした。福祉分野の課題にしても、他の社会的対策が求められる問題には、「社会貢献」ではなく、「本来なすべきことをする」といった認識や姿勢が変わってほしいと思っています。いわんや「平和」への取り組みは、そうでなくてはならないでしょうね。

他宗との交流・共働を

——まだまだお尋ねしたいことはあるのですが、時間も迫ってきました。最後に若い僧侶、私は55歳以下くらいを想定しているのですが、この世代の僧侶に向けてのメッセージをお聞かせください。

長谷川氏 「仏教史を研究している立場から言えば、『歴史に謙虚に学んでほしい』ということでしょうか。浄土宗を学ぶ人の大半は、宗祖や二祖、三代といった人物やその業績に関心を持つけれど、後世にいけばいくほどトーンダウンしているのは残念です。浄土宗だけでも850年の歴史があるのだから、それぞれの時代に浄土宗が果たした役割を丁寧に見て行ってほしいですね。そうすれば、近現代にわが宗門が取ってきた行動についても、反省すべき点も明らかになってくると思います」

島藺氏 「檀家の方々と、葬祭を中心に接するだけという従来の関係は、ますます限界が来ています。しかし逆に、仏教をはじめとした宗教に関心を持つ人々、とくに若い世代は確実に存在します。浄土宗は従来からそうした人々に働きかけることには積極的で、『介護カフェ』や『おてらおやつくらぶ』などの活動は有名です。長谷川良信のトゥギャザー ウイズ ヒムの精神で、社会福祉をはじめ、臨床宗教師とか災害支援であるとか関心のある分野で一步を踏み出してほしいですね。平和を実現するための働きなども、その先に見えてくるのではないのでしょうか」

長谷川氏 「もう一つだけ付け加えるなら、浄土宗の中で完結させるのではなく、他宗との交流・共働にも心を配ってほしいですね。宗祖・法然上人は鎌倉仏教の先駆けであり、他の宗派との違いも乗り越える寛容さがあったはず。個人としては念仏信仰であっても、大乘仏教ですから、みなとともに安楽国へという思いで、若い世代にも取り組んでいっていただきたい」

——おっしゃる通りですね。話は尽きませんが、このあたりで。本当にありがとうございました。頂戴した多くのご示唆を、今後の浄平協の活動に活かしてまいりますと存じます。

【注1】 渡辺海旭（わたなべ・かいきよく、1872—1933） 浄土宗の僧侶で社会事業家。東京・浅草生まれ、浄土宗の第1期海外留学生として仏教学とともに欧州の社会政策や社会事業を学んで帰国し、宗教大学（現大正大学）教授をつとめた。また、実践の場として浄土宗労働共済会を設立した。

【注2】 吉田久一（よしだ・きゅういち、1915—2005） 社会福祉学者。新潟県生まれ。1943年、応召し中国・満州・沖縄などを転戦。長く日本社会事業大学で教鞭を取った。著書に『吉田久一著作集（全7巻）』、『清沢満之』などがある。

【注3】 福田行誠（ふくだ・ぎょうかい、1806—88） 幕末・明治期の浄土宗僧。東京生まれ。京都に遊学し、廃仏毀釈で混乱した維新期の仏教界の再建に尽力した。初代浄土宗管長。社会福祉にも尽くした。

鼎談開催日：2024（令和6）年10月11日
ところ：浄土宗東京宗務庁（東京）

ブックギフト

令和5年度のブックギフトは、宮城・東京・京都・福岡の4会場で開催しました。

法要終了後、希望書籍が留学生に直接手渡され、数珠繰り・茶話会など趣向を凝らしていただき、親睦を深めました。受賞者からは、「物価高の中、研究書は高く図書館でも読めるが自分の物となって書き込めたり時間に関係なく使えることでより集中できて大変うれしいです」と感謝の言葉がありました。

本年も各会場の皆様のおかげをもち、無事授与式を終えました。御礼申し上げます。これからも沢山の方がブックギフトに参加され、共生の精神に満ちた世界を謳う本事業の主旨が広まることを願います。



宮城会場



東京会場



京都会場



福岡会場

浄土宗平和協会 第6回作文コンクール受賞者の報告

受賞校訪問記

令和六年度の平和作文コンクールで、総裁賞、会長賞、学校賞の三賞を受賞された樹徳高等学校を訪ねた。表彰状の授与式に合わせて行く校長先生と総裁賞受賞の生徒さんへの取材が訪問の目的である。受付で来意を告げる。明照学園理事長と樹徳高等学校長を兼務されている野口秀樹先生がお待ちくださっている校長室に案内を受けて入室。続いて受賞者の渡辺紗(すず)さんが、教頭の進藤友宏先生と渡辺さんの学級担任である家住誠先生に伴われて入室。野口先生とは十数年ぶりの再会であったが、笑顔と背筋を伸ばして発せられる明瞭でよく通る声は若い。



校名の由来と教育の心を尋ねた。「徳を樹(う)えるという願いが校名の由来だが、仏教には人は誰でも輝く貴いものを授かって誕生しているという教えがあり、これを本校では徳と表現している。この徳を生徒自らが育み、この輝きを充満させ、自らを信じ、生きることの素晴らしさを実感する青少年を育てていきたい」と口調が熱い。



《各賞及び受賞者》

総裁賞	樹徳高等学校	2年生	渡辺 紗
副総裁賞	真和高等学校	2年生	平野 陽路
副総裁賞	上宮高等学校	3年生	中嶋 駿
会長賞	樹徳高等学校	2年生	内田 葵
理事長賞	真和高等学校	2年生	小河 百合
学校賞(総裁名)	樹徳高等学校		

※ 今年度は320名の方からの応募がありました。

以下、廣瀬理事長のインタビュー

廣瀬: タイトルの付け方や構成、表現、リズム感のある筆致から、文章の創作に慣れていて、読書量も多く、書くことが好きな生徒さんだなという印象を受けましたが、いかがでしょうか？

渡辺: 文作の練習などはしていませんが、読書は大好きですね。

廣瀬: 文中にあるく着物の質感やその空間の匂い>なんて表現は、心から読書が好きでないと使えない表現です。日頃はどのようなジャンルを愛読していますか。

渡辺: 特定のジャンルはありません。学校や地域の図書館で借りて読むことが多いですね。

野口: タイトルはどのようなイメージで付けましたか？

渡辺: あるテレビ番組の中で、カラー写真を見ていたおばあさんが、「明るい色は平和の色です」と言われたのが、すごく心に残りました。戦争を体験している人だからその重みのある言葉というので、印象に残ったので付けました。

廣瀬: 昨日まで沖縄に修学旅行でしたが、強く印象に残ったことはありますか。

渡辺: ひめゆりの塔に、亡くなられた一人一人の人物像や亡くなられた経緯と一緒に顔写真が展示されていましたが、何人が亡くなったのかという死者の数に触れるよりも、顔があり、名前があり、日常をどのように過ごしていたのか、さらには故人の個々の性格などを知ることによって彼女たちの死が現実味をともなって湧いてき

たことです。

廣瀬: 平和を考える上で大切だと思うことは何でしょう。

渡辺: 抽象的なとらえ方でなく、具体的に戦争で何があったのかについて体験談を聞いたり、自分で記念館などに行って、詳しい情報を自分で知ることだと思います。簡単に忘れてしまわないためにも<自分で知る>ことはとても大切なことだと思っています。

廣瀬: 高校卒業後の進路は？あるいは将来の目標を教えてください。

渡辺: JAXAのような機関で宇宙関係の仕事につきたいです。

渡辺さんは中学時代に群馬県で開催された「青年の主張」弁論大会で優勝し、その賞金10万円をフードロス関連団体への寄付や、海外の子どもを対象にするチャイルドスポンサー活動に充てている。

渡辺: 誕生日やクリスマスにはグリーティングカードを送り、また子どもたちからも定期的に手紙が届きます。自分が誰かにしてあげることというのは、自分の幸福度もも上げることにつながるの、このようなく幸福の輪をもっと広げたいと思っています。

インタビューを終え、野口校長先生にご自慢の【共生図書館】を案内していただいた。読書の楽しみが自然に身につく素晴らしい図書館。樹徳の生徒は幸せである。

廣瀬記

明るい色は平和の色

樹徳高等学校二年 渡辺 紗

「明るい色は平和の色です。」

八月六日、広島原爆忌の日に放送された番組の中で、爆者の被爆前の写真をカラー化する取り組みをしている記者の特集がありました。この記者に、九十七才の女性が夫と写ったモノクロの結婚写真のカラー化をお願いしたので、でき上がった写真を食い入るように見ていた女性が発した言葉が冒頭の「明るい色は平和の色です。」なのです。カラー化された写真は、着物の質感で当時のその空間の匂い、夫と交わした言葉など過去の記憶がよみがえり、女性を温かい気持ちにしてくれたことでしょう。

今、私たちの生活の中でカラー（色）は当たり前のごとで常に色で囲まれていて、何かを選択する時たくさんの色がありすぎて迷うくらいです。そんな当たり前の「色」にこんなにも大きな影響を受けるのは、この女性が戦争を体験したからなのだと思います。想像してみれば戦争は怖くて暗くて悲しくてほぼ一面灰色や黒色のモノクロの世界です。小学生の時に訪れた広島原爆資料館で見てきたおそろしい光景は今でも頭に焼きついて離れません。

現在ロシアとウクライナとの戦争が続いていますが、私の兄はロシアの女性と結婚しています。とてもかわいらし

い奥さんです。ウクライナとの戦争が始まる前に婚約し、日本に來日したのは戦争が始まってからです。日本との直通便がなくなってしまう、トルコ経由で丸一日かけて來日しました。最初、家族はロシアの人が日本になじめるのかとても心配していました。しかし、本人は日本語の勉強やおすしやさんでバイトをするなど一生懸命日本に慣れようと努力しています。しかしウクライナとの戦争が始まってしまうと母は少し複雑だったようです。新聞やマスコミでは、ロシアの凶行が次々と放送され「ロシアは悪」という取り上げ方です。しかし兄嫁のように一人を見れば、本当に一人の人間としてかわいらしくいい人です。会ったことはないのですが彼女の家族もロシアの田舎に住んでいて、穏やかに暮らしているそうです。もし兄嫁がウクライナの人であったとしても同じように感じたと思うのです。

今、兄夫婦はロシアに行っています。彼女は結婚後二年ぶりによくやく両親に会えたのです。この戦争が影響してなかなかロシアに里帰りできなかったのです。ロシアから美しい自然の写真が送られてきました。しかし、ウクライナではその美しい自然がたくさん失われているのです。市民一人ひとりのレベルでは友好を築けるはずなのです。国家間でも早く戦争停止となってモノクロの世界からカラーの世界に戻してほしいと強く願います。

令和5年度 会費納入者ご芳名 (「教区」「組」「寺院名」「個人名」 ※敬称略)

【北海道第一教区】	室蘭 善照寺 小樽 無量寿寺	佐々木 昌宏 尾 昭男	第三	圓福寺	池田 常臣	港北	正受院寺	朝倉 和信	
【北海道第二教区】	東 大成寺 大然寺 浄土寺 法隆寺 菩提寺 阿弥陀寺 北泉岳寺 正福寺	藤井 敬亮 高部 有光 渡部 昭史 石木 祐憲 若松 智之 皆上 宣信 大 高 陽照	第四	聖福寺	今井 康亮	鎌倉 中郡 小田原	大善忠傳寺 宝寺院 道場源光	倉川 見寿 夏平 佐木 夏平 佐木 若古 林川	和弘 貴史 裕 元洋 木 道茂 築 哲雄
【青森地区】	弘南 東青 上北	貞昌寺 浄満寺 平安寺 光明寺	第二	源光寺	里見 純庸	【山梨教区】 甲府	善光寺	吉原 優人	
【岩手教区】	花巻 氣仙	松岩寺 善明寺 大念寺 浄土寺 浄願寺	芝	觀智院 妙定院 安蓮社 不断院 本戒願寺 專心寺 西念寺 專念寺 清岸寺 浄土寺 梅窓院 善光寺 十方寺 瑞泰寺 功德林寺 嚴浄院 一行寺 善光寺 正覺院 長専院 攝林院 本誓院 靈性寺 大泉福 明福寺 法林寺 樞寺 源空寺 長福寺 保元寺 瑞泉寺 九品寺 浄正寺 光増寺 貞院寺 祐天寺 慶岸寺 蓮宝寺 極樂寺 勝泉寺 養運寺 神田寺 觀音院 浄心寺 林海庵 西光寺 宗福寺	土屋 正道 小福 秀美 大渡 健司 長谷 裕潤 柴村 晃海 西嶋 健哉 布渡 伸宏 原 弘之 阿川 正貫 中島 真成 石川 親惠 坂田 良仁 野呂 博道 新谷 仁海 鈴木 千曉 小野 静雄 安孫子 虔悦 正本 光生 清水 智充 福齋 隆尚 西城 宗隆 杉井 徹壽 大谷 泰彦 日比野 郁皓 岡 里司 嘉藤 哲也 長川 香薰 窪見 達人 一瀬 哲雄 花川 保園 荻野 順雄 多賀 谷浄 原 慎雄 林 清方 巖田 順正 佐藤 正仁 小川 有閑 武澤 憲雄 茂田 知暁 田中 光成 友松 浩志 小椋 雄道 榎原 泰淳 笠原 立晃 八木 暁裕	【新潟教区】 高田 長岡 新潟 川上 【富山教区】 新川 【長野教区】 長野 上小 松本 諏訪 伊那 【静岡地区】 北豆 東駿 清水 静岡 西駿 西遠 【三河教区】 豊橋 豊田 【尾張教区】 名古屋 城南 城北西 津 【伊賀教区】 上野 河合 柘植 【岐阜教区】 赤坂 【石川教区】 浅野川 能登 【福井教区】 坂井 敦賀東 【滋賀教区】 湖北 愛知	大仙寺 照專寺 善導寺 弘願寺 法傳寺 法學寺 三宝寺 芳泉寺 西念寺 玄向寺 宗林寺 法光寺 安樂寺 願成寺 林昌寺 西方寺 實相寺 華陽院 円光院 法伝寺 道圓寺 心造寺 普仙寺 法雲寺 傳光院 建自然 壽林寺 清浄寺 阿彌陀寺 善光寺 西方寺 西雲寺 觀音寺 天然寺 念佛寺 来迎寺 林昌寺 如来寺 玄門寺 寿経寺 西光寺 西光寺 西蓮寺 宗安寺 円常寺 住泉寺 専修院	石川 満祐 川端 和憲 常川 秀圭 佐藤 圭輔 倉井 正則 古田 幸隆 伊東 靖順 金若 明伸 玄麻 績実 向須 眞教 山林 徹静 光寺 孝心 安念 瑞澄 願成寺 林昌寺 西方寺 實相寺 華陽院 円光院 法伝寺 道圓寺 心造寺 魚尾 和彦 小島 亨海 水口 克昭 鶴飼 康祐 中村 卓文 堀浅 哲朗 野井 達弘 友田 良道 箕輪 善秀 山 平 澄	
【山形教区】	山形	實相寺 専念寺 迎接寺 浄光寺 安養寺 常念寺 本願寺	江東	觀智院 妙定院 安蓮社 不断院 本戒願寺 專心寺 西念寺 專念寺 清岸寺 浄土寺 梅窓院 善光寺 十方寺 瑞泰寺 功德林寺 嚴浄院 一行寺 善光寺 正覺院 長専院 攝林院 本誓院 靈性寺 大泉福 明福寺 法林寺 樞寺 源空寺 長福寺 保元寺 瑞泉寺 九品寺 浄正寺 光増寺 貞院寺 祐天寺 慶岸寺 蓮宝寺 極樂寺 勝泉寺 養運寺 神田寺 觀音院 浄心寺 林海庵 西光寺 宗福寺	江東	北豆 東駿 清水 静岡 西駿 西遠 【三河教区】 豊橋 豊田 【尾張教区】 名古屋 城南 城北西 津 【伊賀教区】 上野 河合 柘植 【岐阜教区】 赤坂 【石川教区】 浅野川 能登 【福井教区】 坂井 敦賀東 【滋賀教区】 湖北 愛知	願成寺 林昌寺 西方寺 實相寺 華陽院 円光院 法伝寺 道圓寺 心造寺 魚尾 和彦 小島 亨海 水口 克昭 鶴飼 康祐 中村 卓文 堀浅 哲朗 野井 達弘 友田 良道 箕輪 善秀 山 平 澄		
【宮城教区】	第二 第五 第六	成覚寺 愚鈍院 眞覺寺 往生寺	浅草	淨蓮寺 大巖寺 南龍寺 大念寺	郡嶋 泰威 長谷川 匡俊 藤田 良宣 大島 祥明	【神奈川教区】 小田原 京浜 港北	念佛寺 壽福寺 三宝寺 大見光 龍安寺	北伊 賢雄 伊藤 寿宏 樋口 芳成 宮林 眞彦 谷田 成也	竹内 真道 北條 秀雄 木村 亮介 長瀬 良秀
【福島教区】	中央	大千寺 無能寺 大安寺 誓傳寺 常宣寺	城北部	淨蓮寺 大巖寺 南龍寺 大念寺	郡嶋 泰威 長谷川 匡俊 藤田 良宣 大島 祥明	【神奈川教区】 小田原 京浜 港北	念佛寺 壽福寺 三宝寺 大見光 龍安寺	北伊 賢雄 伊藤 寿宏 樋口 芳成 宮林 眞彦 谷田 成也	竹内 真道 北條 秀雄 木村 亮介 長瀬 良秀
【群馬教区】	高崎 吾妻 太田 館林	大泉寺 龍光寺 永心寺 清見寺 長念寺 神光寺	玉川	淨蓮寺 大巖寺 南龍寺 大念寺	郡嶋 泰威 長谷川 匡俊 藤田 良宣 大島 祥明	【神奈川教区】 小田原 京浜 港北	念佛寺 壽福寺 三宝寺 大見光 龍安寺	北伊 賢雄 伊藤 寿宏 樋口 芳成 宮林 眞彦 谷田 成也	竹内 真道 北條 秀雄 木村 亮介 長瀬 良秀
【栃木教区】	足利 佐野 下都賀 晃北 宇都宮 塩那 芳賀	法玄寺 徳正寺 一向寺 福正寺 雲龍寺 龍蔵寺 清巖寺 西導寺 法真寺 善念寺 万福寺	江東 玉川 城北 八王子 北部 玉川	淨蓮寺 大巖寺 南龍寺 大念寺	郡嶋 泰威 長谷川 匡俊 藤田 良宣 大島 祥明	【神奈川教区】 小田原 京浜 港北	念佛寺 壽福寺 三宝寺 大見光 龍安寺	北伊 賢雄 伊藤 寿宏 樋口 芳成 宮林 眞彦 谷田 成也	竹内 真道 北條 秀雄 木村 亮介 長瀬 良秀
【茨城教区】	水戸 霞北 常総 猿島	清巖寺 西方寺 得生寺 本願寺 浄圓寺 無量寿寺 宝輪寺	安房 千葉 葛飾 葛南	淨蓮寺 大巖寺 南龍寺 大念寺	郡嶋 泰威 長谷川 匡俊 藤田 良宣 大島 祥明	【神奈川教区】 小田原 京浜 港北	念佛寺 壽福寺 三宝寺 大見光 龍安寺	北伊 賢雄 伊藤 寿宏 樋口 芳成 宮林 眞彦 谷田 成也	竹内 真道 北條 秀雄 木村 亮介 長瀬 良秀
【埼玉教区】	第一 第二	蓮馨寺 西願寺 徳性寺 浄音寺	安房 千葉 葛飾 葛南	淨蓮寺 大巖寺 南龍寺 大念寺	郡嶋 泰威 長谷川 匡俊 藤田 良宣 大島 祥明	【神奈川教区】 小田原 京浜 港北	念佛寺 壽福寺 三宝寺 大見光 龍安寺	北伊 賢雄 伊藤 寿宏 樋口 芳成 宮林 眞彦 谷田 成也	竹内 真道 北條 秀雄 木村 亮介 長瀬 良秀

兵戈無用

浄土宗平和協会理事長 廣瀬 卓爾

いたいけな少女が頭から血を流している。父親であろうか、その幼子を腕に抱えて天を仰いでいる。悲痛にくれる彼を取り巻く住民たちも、怒りとやるせなさを相交えてこぶしを天に向かって突き上げ叫んでいる。街は一面が瓦礫と化している。折れ曲がってむき出しになった鉄骨が幾重にも重なり、大小のコンクリートの塊が街を埋め尽くしている。そこに人が住み、無辜の家族がその瞬間まで人としての生活を営んでいた痕跡は、破碎された家具や遊具そして垂れ下がった洗濯物が語るのみである。あろうことか、学校や病院までもが街から消えた。その瓦礫の街を、どこへ向かうのか、うつろな表情を浮かべた老人が杖を頼りに歩いている。そこが、ウクライナの街なのか、パレスチナはガザ地区のそれであるのか、もう私には区別がつかない。

目を日本に転ずれば、戦後今日まで、私たちが大切に護り続けてきた世界に誇る平和憲法を、とりわけ「戦争放棄」や「戦力の不保持」を明記した九条を改めようとする思潮が勢いを増しつつある。核兵器廃絶の願いには「現実的ではない」との声高な主張が罷り通る情勢にある。

戦後80年、築き上げてきた「平和」が瓦解しそうな今日にあっても、「平和・反戦・非戦」について思うところを口にするを、「政治的だ」と批判する人や揶揄する人が、まだいる。

政治によって紛争が起き、無辜の人が殺傷されているこの現実には異議を唱え、殺すな！殺されるな！と主張し行動することに、なぜか勇気を要するような空気が、うっすらと漂い始めている。本協会の役割を噛みしめずにはおれない。

平和念仏募金のご協力をお願い

平和念仏募金は、各 NGO や NPO 団体への援助、私費留学生に希望図書
を贈呈するブック・ギフト活動、浄土宗平和賞などの活動に充てられます。
何とぞご協力賜りますようお願い申し上げます。

- ◆ ①世界の人人々に役立つ、②共に学びあう、③社会にアピールする、④新たな人材を発掘・養成する一の方針のもと、NGO や NPO を支援しております。
- ◆ 私費留学生希望図書購入支援「ブックギフト」事業を行い、留学生の勉学支援をしています。

編集 後記

今回の本誌は、宗門内外でご高名な島蘭進先生と長谷川匡俊先生にご登場いただき、廣瀬理事長の司会で鼎談が進められた。両先生から、アジア・太平洋戦争時を含めて偉大な僧侶方の業績を披歴していただき、言葉の一言一句に歴史と重要性を感じる。

旧臘、ノーベル平和賞は日本原水爆被害者団体協議会（被団協）が受賞した。平和を希求する日本人にとっては大変な喜びと言わざるを得ない。日頃から被団協に関わっていない私でさえも、被団協68年の活動に敬意と感謝を捧げた。被爆者の確固たる信念と精神は、世界中の核軍縮運動への意識を促進する原動力となっているに違いない。平和賞受賞を喜びで終わらせることなく、この受賞をきっかけに平和について全ての人々に今一度考えてもらえる機会になれば有難い。

浄土宗の宗祖法然上人は、武家に生まれながら武器を捨て念珠をとられた。その背景を考えれば、法然門下の私達もどうすれば良いかを考えざるを得ない。宗祖の御心を体するなら、平和への想いも当然含まれている。（山川正道）

入会要項

浄土宗平和協会の活動に
あなたも参加しませんか？

正会員

対象…浄土宗教師・寺族
会員…年間 10,000 円

賛助会員

対象…檀信徒、企業や宗教法人以外の団体
会員…檀信徒会員年間 2,000 円
法人会員年間 10,000 円（一口）

浄土宗平和協会役員・スタッフ

総 裁	伊藤 唯眞	参 与	荻野 順雄
副総裁	小澤 憲珠	理 事 長	廣瀬 卓爾
副総裁	福原 隆善	副理事長	山北 光彦
会 長	川中 光教	副理事長	永江 憲昭
副会長	茂木 恵順		
理 事	東海林良昌	事務局長	山川 正道
理 事	日比野郁皓	事務局次長	宮田 典彦
理 事	小口 秀孝	事務局員	小泉 範幸
理 事	秦 智宏	事務局員	田中 堅信
理 事	若山 敦子	事務局員	椿 随 宏
理 事	山川 正道	事務局員	真鍋 博鵬
理 事	加用 雅信	事務局員	霜村 真康
監 事	山下 裕通		
監 事	倉井 正則		

寺院で回覧してお読みください。

浄土宗平和協会 Jodo Shu Peace Association



編集・発行：浄土宗平和協会事務センター
〒622-0003 京都府南丹市園部町新町火打谷 5 教傳寺内
TEL：0771-62-0442 FAX：0771-62-1620

